

たぐすい

JFグループ兵庫



特集 兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター研究報告

CONTENTS

- 2 兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター研究報告
- 4 大輪田塾 修了式・入塾式
- 5 第2回ひょうご豊かな海づくり推進大会/
「県女性連」農林水産部長意見交換会
- 6 虹の仲間と海づくり/海の子作文
- 7 津居山地区 新船 進水式/
兵庫県漁協青壮年部連合会が研修会を開催
- 8 SEAT-CLUB 料理教室/淡路の魚PR大作戦
- 9 浜のいきいきfamily
- 10 ようそろ/豊かな海へ かいぼりを実施
- 11 兵庫 JCC 通信/協同組成人養成講座の開催
- 12 SEATCLUB 魚介レシピ

兵庫県立農林水産総合センター水産技術センター水産環境部研究員 肥後 翔太

はじめに

水産技術センターでは、漁場環境を継続的に把握するために、1973年から現在まで毎月1回の頻度で、播磨灘の19定点で浅海定線調査を実施しています。水温や塩分、栄養塩濃度などといった観測結果は「漁場環境情報」として水産技術センターのホームページで公開され、漁業者等に活用されているほか、蓄積されたデータは様々な研究や水産施策等に役立てられています。そんな浅海定線調査は、2022年で観測開始から50年が経過しました。今回は浅海定線調査の50年間の観測結果について、各観測項目の表層の海域平均値と年平均偏差の経年変動の取りまとめに加え、期間中の上昇や低下の傾向の有無と大きさを検出するトレンド解析(図の実線)や変換点を検出するジャンプ解析(図の点線)も試みしたので一部を紹介します。※トレンド及びジャンプは有意な結果のみ図示しています。

● 水温

水温は1980年代から1990年代にかけてと2015年代中旬以降に緩やかな上昇があり、50年間で1.46°Cの上昇が確認されました(図1)。気象庁の観測では、日本近海の海面水温は2022年までの100年間で1.24°C上昇したことが確認されており(気象庁2023「気候変動監視レポート2022」)、外洋から離れた播磨灘の水温は日本近海の中でも上昇率が大きいことがわかります。また、変化の大きかった年を示すジャンプ解析により、1997年に上昇ジャンプが検出されました。水温上昇の要因としては気温上昇に伴う海面水温の上昇や外洋水の影響などが考えられますが、気象庁で観測される姫路市の気温のデータで同様の解析を行うと、1997年に上昇ジャンプが確認され、播磨灘の水温は気温の影響を大きく受けていることがわかりました。

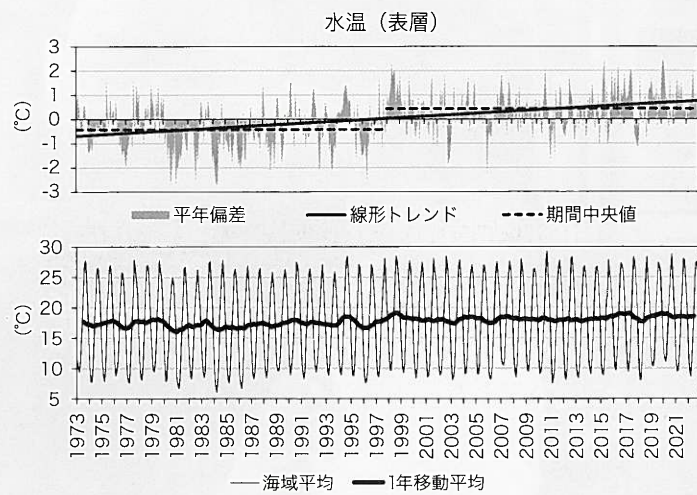


図1 表層水温の海域平均値と年平均偏差の経年変動

● 塩分

塩分は2010年頃までは上下を繰り返し、一定の傾向は確認されませんでした。2011年に低下側へのジャンプが検出され、以降は50年間の年平均値を下回ることが多くなりました(図2)。塩分は河川からの淡水流入の影響を大きく受けることがわかっていますが、姫路市の月平均の降水量データでは同様の傾向がなく、降水量との関係は認められませんでした。外洋水の影響や豪雨の発生頻度の増加など、塩分低下の原因究明が今後の課題になります。

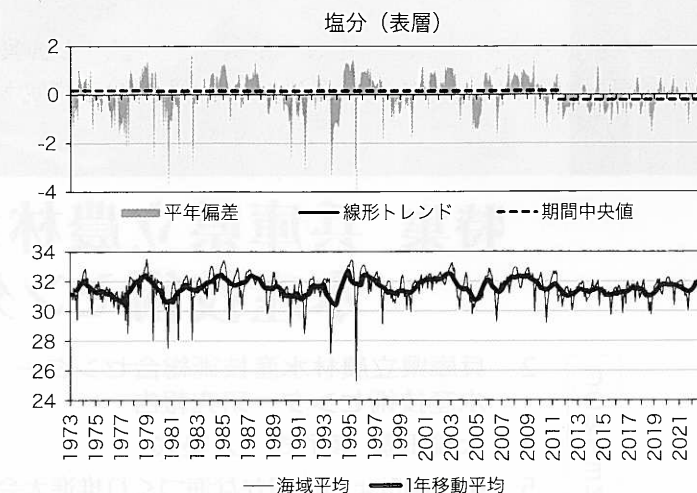


図2 表層塩分の海域平均値と年平均偏差の経年変動

● 栄養塩濃度

溶存態無機窒素(DIN)濃度は1990年代前半に一時的に高い値を示す時期がありましたが、50年間で5.25μMの低下が確認されました(図3)。特に2000年頃に急激な低下が確認され、その後は50年間の年平均値を上回ることがほとんどありませんでした。瀬戸内海では2001年に窒素が総量規制の対象となり、陸域からの窒素負荷が減少したことの影響が大きいと考えられます。一方で溶存態無機リン(PO₄-P)濃度は50年間で有意な低下傾向が検出されましたが、その低下率は50年で0.06μMとDIN濃度に比べて小さく、特に2000年代以降は変動が小さくなっています(図4)。

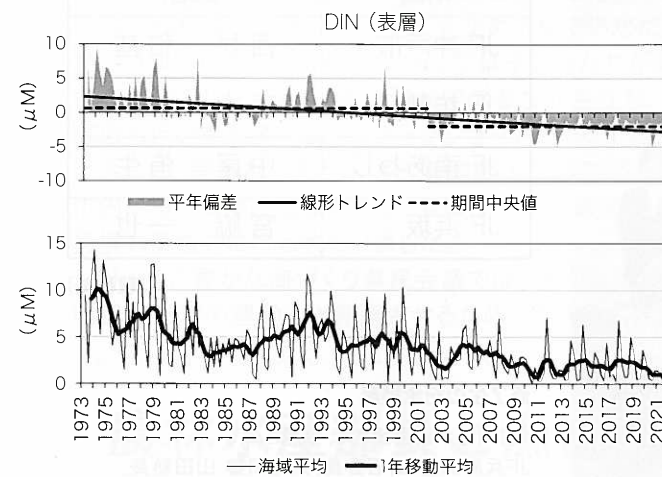


図3 表層DIN濃度の海域平均値と年平均偏差の経年変動

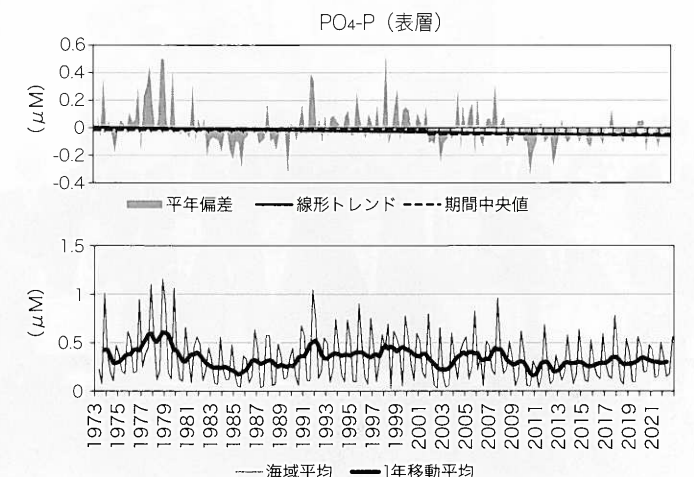


図4 表層PO₄-P濃度の海域平均値と年平均偏差の経年変動

まとめ

播磨灘におけるこの50年間の主要な海洋環境の変化として、水温の上昇と栄養塩濃度の低下が挙げられます。水温の上昇は漁獲対象種の変化や養殖ノリの養殖期間の短縮のほか、海洋生態系の変化により様々な海洋生物に影響を与えると考えられ、今後も注視していく必要があります。また、栄養塩濃度の低下は、養殖ノリの色落ちの原因となり、海域の基礎生産が低下し漁獲量が減少することも懸念されています。兵庫県では「瀬戸内海環境保全特別措置法」の改正を受けて策定された「兵庫県栄養塩類管理計画」に基づき、2022年から民間の工場等を含めた窒素供給が本格的に開始されるなど、様々な栄養塩類管理の取組が実施されるようになりました。近年は漁獲量の減少が著しく、その科学的解明が求められていますが、浅海定線調査による長期に蓄積されたデータは解析を行う上での基礎となるものであり、今後も調査を継続していかねばなりません。

※本文は2024年3月に発行された「瀬戸内海ブロック浅海定線調査 観測50年成果集」を一部抜粋しています。

*肥後翔太 (2024): 兵庫県海域(播磨灘). 瀬戸内海ブロック浅海定線調査 観測50年成果集. 水産研究・教育機構水産技術研究所編, 広島, 2024; 75-9

令和6年度 大輪田塾 修了式ならびに入塾式 開催

～第18期生修了 第20期生入塾～

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾で、令和6年度 修了式ならびに入塾式を執り行いました。今年は10月29日(火)にシーサイドホテル舞子ピラ神戸で、50名が出席するなか、18期生4名が修了するとともに、20期生となる入塾生5名が入塾しました。開会にあたり、大輪田塾運営委員 小林運営委員(兵庫県水産振興基金 専務理事)から「本年度は18期生4名が優秀な成績で修了するとともに、5名の20期生が入塾する事ができました。このように大輪田塾が式典を盛大に開催できますことも、兵庫県や系統団体、塾生を送り出していただいた漁業協同組合のご支援の賜物であります。本日は誠にありがとうございます。」と挨拶がありました。



所属	氏名
JF 神戸市	西村 和基
JF 坊勢	荒木 大和
JF 南あわじ	中尾 侑生
JF 浜坂	宮脇 一也

(敬称略)

修了生の記念撮影

(前列左から:宮脇さん、中尾さん、JF兵庫漁連 田沼会長、大輪田塾 山田塾長、兵庫県農林水産部 守本部長、荒木さん、西村さん)

修了式では、修了生が一人ずつ山田塾長から修了証書を手渡された後、それぞれ決意の言葉を述べました。

その後、19期生 鈴木 柊さん(JF林崎)から「修了式を迎えられたことについては、少々寂しい気持ちもありますが、入塾してくる20期生とともに塾を盛り立て、頑張っていきたいと思っております。」と送る言葉を受けた4名は決意を新たに修了しました。



所属	氏名
JF 神戸市	実熊 良太
JF 西二見	松本 一輝
JF 坊勢	森 優輝
JF 仮屋	酒部 広志
日本漁船保険組合 兵庫県内海支所	坂田 健一

(敬称略)

入塾生の記念撮影

(前列左から:坂田さん、酒部さん、JF兵庫漁連 田沼会長、大輪田塾 山田塾長、兵庫県農林水産部 守本部長、森さん、松本さん、実熊さん)

入塾式では、新入生代表の実熊 良太さん(JF神戸市)から「最後までやり遂げられるのかという不安はあるが、この学びの場で、これから頑張って仲間たちと共に勉強をし、地域や兵庫県の水産業界の発展に一日も早く役立てるように努力していきたい。」と誓いの言葉を述べたのち、19期生 濱邊 恵太さん(JF仮屋)から「ここでの経験がきっと自らの業務はもとより、浜の発展の力になってくれます。明日の漁業のために、一緒に頑張っていきましょう。」と歓迎の言葉が贈られました。

第2回ひょうご豊かな海づくり推進大会を開催



10月19日(土)、20日(日)に「第2回ひょうご豊かな海づくり推進大会」を明石市の県立明石公園千畳芝にて開催しました。今年度は第45回兵庫県民農林漁業祭に推進大会ブースを設けて実施したこともあり、19日はあいにくの雨模様となりましたが、2日間で延べ約14,000名(19日約4,000名、20日約10,000名)のご来場がありました。

本大会では、県民会議会員の取組事例の発表や豊かな海づくりに関する展示、海を感じるワークショップなどを通じて、会員間の連携促進や県民総参加に向けた情報発信を行いました。ひょうご豊かな海づくり県民会議はブルーカーボンテーマに展示を行うとともに、魚の塗り絵やお魚クイズを実施しました。

農林水産物の販売を目当てにご来場される方が多い中、会員の取組事例の展示等にも足を止めて見ていただくことができました。また、ワークショップは子どもたちが興味を持つような内容が多く、家族連れでの参加が目立ち、1日で500名近い参加者となったワークショップもありました。

さらに、南あわじ市からは吉備国際大学農学部をはじめ市内から3団体の出展もあり、会員間での情報共有や意見交換も積極的に行われていました。

ひょうご豊かな海づくり県民会議では、豊かな海づくりを県民総参加の運動へと発展させるため、多様な主体が取り

組む豊かな海づくり活動のネットワーク化を推進し、団体相互の情報共有や活動の連携と普及啓発活動を積極的に展開していきますので、皆様の参画とご協力の程よろしくお願ひします。



ひょうご豊かな海づくり
県民会議のホームページは
こちらのQRコードからアクセス!▶

農林水産部長と漁協女性部役員の意見交換会

県女性連

兵庫県漁協女性部連合会(高山淳子会長:JF明石浦)は、10月4日(金)兵庫県水産会館にて「農林水産部長と漁協女性部役員の意見交換会」を開催しました。

この会は、部員の減少や活動の縮小が続くなか、活動の試行方向を模索している兵庫県女性連が、新たな活動内容や、今後の活動のモチベーション向上について守本部長をはじめとする県幹部らと意見を交わす場として初めて実現したものです。

開会にあたり、初めに守本部長は「海上の仕事は男性のイメージが強い。しかし男性だけで漁業が成立するわけではなく、陸上での女性の貢献度も大きい。部員の減少、高齢化、活動の縮小に加え、気候変動などで海も変化して苦しい状況が続いていることへの理解を示した上で、今回の意

見交換会をともに活動を考えていきたいと思います。」との挨拶がありました。続いて、同会 高山会長は「この20年間で43会員から10会員へ、女性部員は約3,000人から660人へと縮小してしまいましたが、時代に合わせた女性部活動の在り方を取り入れていき、活動の再建に取り組んでいきたい。」と挨拶しました。

その後、5名の女性部役員から摂津・播磨・但馬地区で行ってきたこれまでの女性部活動報告やそれぞれの浜の現状について発表し、これらを受けて、参考になればと菅村次長から県下農協女性部などの事例紹介をしていただいた後、活発な意見交換が行われました。今後も定期的に意見交換会を実施する事を決定し、盛会のうち閉会する運びとなりました。



虹の仲間で海づくり ～豊かな海づくりに向けて～

10月13日(日)明石大蔵海岸で、兵庫県漁業協同組合連合会とひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会が主催する、「豊かな海を食べる・学ぶ・体験する」をテーマに、豊かで美しい海の必要性を広く県民にPRすることを目的とした「虹の仲間で海づくり」が開催され、大人と子ども合わせて約40名が参加しました。

同協議会 突々 淳会長による開会の挨拶から始まり、JF兵庫漁連 西本 広幸課長による豊かな海についての説明が行われ、豊かな海とは、また豊かな海づくりには何をしたらいいのかを学びました。その後、参加者は2班に分かれ「アサリ稚貝の放流と施肥」、「海中観察」を行いました。

アサリ稚貝の放流と施肥では、アサリ稚貝を海に放流し、アサリ資源の維持に取り組みました。そして、砂浜に穴を掘り肥料を埋めて海に栄養を送りました。昨年、アサリの稚貝を放流した場所を確認すると、アサリの姿は見えなかったものの、ヤドカリなどの生き物がたくさん生息していました。

海中観察では、水中ドローンを操作し、海中の観察を行いました。「大きい魚がいる!」「ウニがいる!」と、大きい魚やウニ、イカなど普段見ることのない魚の姿に子どもたちは大喜びでした。

また、移動中空き缶やプラスチックごみ、たばこの吸い殻などを拾い、浜の清掃活動も行いました。

活動終了後は昼食を兼ねて交流会が開かれ、1日の出来事を共有しました。生活協同組合コープこうべ 金子 博子理事の挨拶により閉会となり、豊かな海について理解が深まる1日になりました。



突々 淳会長による開会の挨拶

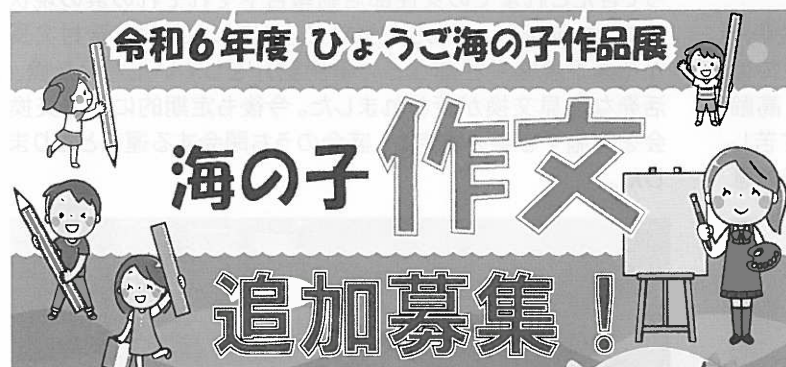


水中ドローンを操縦する様子



アサリ稚貝の放流の様子

令和6年度 ひょうご海の子作品展 作文部門 追加募集!



令和6年度ひょうご海の子作品展 作文部門の追加募集をいたします。あなたの目から見た、漁業や漁師さんの事、漁港や市場の様子、そして海の様子など、「漁業」や「海」を自由な発想で表現してみませんか?
兵庫県知事賞受賞者には香住ガニ(ボイルベニズワイガニ)をプレゼント!! たくさんのご応募をお待ちしています。

詳細はQRコードからシートクラブHPをご覧ください。▶



【募集対象】 県内の小学生・中学生 【募集作品】 作文
【応募締切日】 2025年1月14日(火) (当日消印有効)
【お問い合わせ・送付先】
JF兵庫漁連(指導部:担当 山村) 〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館3階
TEL: (078) 940-8013 FAX: (078) 917-3811

津居山支所にて沖合底びき網漁船「真島丸」が新造船披露

JF兵庫漁連

大漁旗はためく新船「真島丸(118トン・鋼船)」が母港である津居山港(豊岡市)で乗組員の家族をはじめ、多くの地域住民の皆様へお披露目されました。津居山での新船は平成8年以来で28年ぶりとなり、新船の誕生を祝い、豊漁と安全を祈願しました。

新船建造には「浜の担い手漁船リース事業」を活用し、大型化だけではなく甲板上にハードオーニングを設置し、荒天時の操業性能の改善や省エネに加え、居住性の環境改善も含めさまざまな工夫が図られています。また、従来船より船

速が向上し、冷水装置の能力向上により鮮魚の品質向上や冷凍設備の設置により鮮魚の高付加価値化が期待できます。

10月6日(日)のお披露目当日は真っ白な船体に色鮮やかな大漁旗をなびかせて着岸し、雄姿を披露されました。餅まきや平家水軍太鼓が行われ地域住民の歓声の中、新船を縦覧され、漁業振興への期待が高まっていました。

その後、試験操業の後最終調整が行われ、10月21日(月)より新造船による操業が開始されております。



兵庫県漁協青壮年部連合会が研修会を開催

9月27日(金)兵庫県漁協青壮年部連合会が豊かな海づくりに向けた研修会を初めて開催しました。各地域の青年部や漁協水産研究会、県職員ら約14名が参加しました。この研修会は「琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化: 瀬戸内海と比較して考える」という研究会にWEB参加する形で行われ、瀬戸内海で行われている海底耕耘の可能性や、瀬戸内海における近年の環境変動と水産資源について学びました。

最初に、海底耕耘の可能性についての発表がありました。瀬戸内海において赤潮の制圧など漁場生産力回復を目的として海底耕耘を行っており、これを琵琶湖でも行うことで漁場生産力の回復に繋がれる可能性があるという内容でした。次に、瀬戸内海における環境や水産資源の現状の

発表があり、温暖化や貧栄養化により増減した資源のことや、イカナゴ資源減少について様々な視点から見た最新の研究発表もありました。

研修会終了後に意見交換会を行い、「内容が専門的で難しかった。」という声も出ていましたが、魚をしている中で感じた事を研究内容に絡めて意見を述べている姿が見えたり、それぞれの地区の状況についての情報交換も行うなど盛り上がりを見せました。

受講した発表内容は次の通りです。(発表順、敬称略)

- ・湖底耕耘の可能性: 休眠期細胞の活用
.....今井一郎(北大院水)
- ・琵琶湖における湖底耕耘による漁場生産力回復への試み
.....大山明彦(滋賀水試)
- ・瀬戸内海における水産資源の動態: 温暖化/
貧栄養化の影響を受けている資源
.....山本昌幸(福井県立大)
- ・水質-低次・高次生物の繋がりにから見た栄養塩・
水温に対するイカナゴ資源の応答
.....相馬明郎(大阪公立大)



淡路漁協職員協議会 料理教室

淡路漁協職員協議会

淡路漁協職員協議会は10月12日(土) JF兵庫漁連SEAT-CLUB料理教室(兵庫県水産会館内4F)にて旬の魚を使った料理教室を開催しました。この日は紅葉鯛とタコの地中海風料理で森貴子講師が務め、鯛のメレンゲ窯焼き、紅葉鯛と秋野菜のエスカベッシュ、タコとペンネのトマトソースなど旬の魚で普段では挑戦しない料理を知り食材の魅力

を認識することが出来ました。出来上がった料理を参加者と会話を交わしながら各漁協ではどんな魚が沢山水揚げされているのか普段、聞いたり話をする機会が少ないので親睦を深めながら楽しく料理教室に参加して頂くことが出来ました。もっと美味しい旬の魚料理が食卓へ並んでくれたらと思います。



淡路の魚PR大作戦

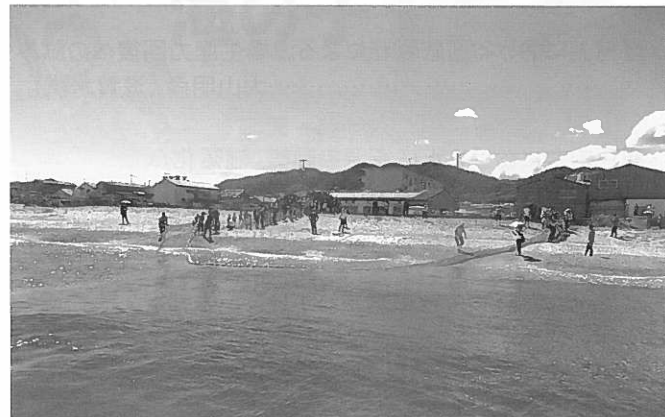
～地元の子どもたちが地引網体験を行う～

JF仮屋/JF森

9月10日(火)、仮屋漁協青年部(15名)と森漁協4Hクラブ(10名)は、(淡路市久留麻)で地引網体験を行いました。この取り組みは、淡路地区漁協青壮年部連合会が淡路の魚介類を知ってもらい、消費してもらうことを目的とした「淡路の魚PR大作戦」の一環として行われました。今回、地元の学習小学校6年生60名と仮屋保育所年長組32名が参加し、両青壮年部が仕掛けた網を掛け声に合わせて引き上げました。

網の中にはタコやタイなどの魚介類があり、皆さん興味津々で飛び跳ねる魚に負けじと、触ったり持ち上げている姿が見られました。小学生の子どもたちは好きな魚介類を1匹氷に入れて持って帰っており、中でもタコが一番人気でした。

今回の地引網体験を通して、子どもたちが地元の魚と豊かな自然に触れることで、ふるさとを大切にすることを養うとともに、魚好きな子どもになってほしいと切に願います。



浜で活躍する漁業者とその家族を紹介するコーナー表紙に登場していただいたご家族を紹介します。今回は、JF兵庫の佐々木さんご一家です!

佐々木さんご一家：佐々木 徹さん、麻由さん、康丞くん、詠丞くん

“たまたま”漁師に

「やりたくない仕事の第1位が漁師でした。」そんな徹さんが漁師になったのは“たまたま”と言う。

21歳の頃、友人が「漁師の謙一くん」の幼馴染で、当時人手不足で困っていたチリメンの仕事を手伝って欲しいと頼まれたのがきっかけ。漁家ではない家庭環境で育った徹さんは「たまたま」手伝いをした漁師の仕事に、こんなに稼ぎが良い仕事がこの世にあったのか!感動した!!と振り返る。紆余曲折ありながらも、実質13年漁師を続けてこられた理由は、一日の時間の使い方(過ごし方)がサラリーマンとは違い、性に合ったからと言う。

何度も再会

よく笑い、明るくふんわりとした優しい印象の麻由さん。徹さんと「最初」に出会ったのは高校時代のアルバイト先。「たまたま」実家が近所の二人はその後、何度も何度も偶然再会したそう。結婚4年目。麻由さんは、一般企業で働いており、今年の5月に育休から仕事復帰をしたばかり。フルタイムでお仕事をしている為、徹さんやご実家の協力も受けながら、仕事・家事・育児を頑張っています。

乗り物大好き兄弟と愛犬

長男の康丞くんは3歳。乗り物・虫・魚が大好きで、優しく甘えん坊。毎日楽しく保育園で過ごし、いろんな事を覚えて帰ってくるそうです。弟の詠丞くんは1歳で、言葉を話し始めたばかり。とても活発&元気で、負けじと何でもお兄ちゃんの真似っこをしていました。この日、子ども達を港に連れていくのが2回目ということで、大喜びで停泊中の船に乗り込み、暑い船内で操縦っこをして遊んでいました。将来有望な船乗りさん??

そして佐々木家には2匹の愛犬ダックスフンドのマイロと雑種(チワワ×シーズー)のナタリーがいます。2匹との出会いも「たまたま」で、もともとは殺処分前など引き取り手が見つからなかった犬たち。今は10年近く心優しい徹さんの下で、幸せに暮らしています。

“謙一くん”に何が起こった!?

徹さんが漁師になるきっかけとなった“謙一くん”こと、大輪田塾17期生の糸谷謙一さん(JF兵庫)。長く一緒に接している二人ですが、ある時から謙一くんの印象が変わったと感じ、彼がなぜ変わったのか?に対して興味を持った時、謙一くんから大輪田塾の話聞いたそうです。在塾中に環境問題に関心を持ち活動していた謙一くん。徹さんは仕事の延長線上として彼の活動を手伝っていました。家業ではなく外から仕事として来た者にとって、お金に変えられる魚が獲れなくなる=仕事なくなる事になる。この先自分たち漁師が当たり前のように魚を獲って、生涯の仕事として安心して続けられる様にするには、漁師にとって一番遠回りしていると思われる環境問題から地道に活動をしていく事が大切だと、謙一くんと関わっていくうちに自分の考え方も変わってきたという。謙一くんきっかけで入った大輪田塾。もしかしたら徹さんも既に印象が変わったのかもしれないね。

“たまたま” - それは人の縁・仕事の縁を手繰り寄せる言葉

僕は死ぬまでずっと魚を食べ続けたい。一人でも多く魚が好きな人が増える事、海を身近に感じてもらえる事、魚を口にする人を増やす事が大切と考え、小学校で海の環境学習やイベントで魚食推進活動を行い、都市部における漁師の在り方を模索しています。「まず漁師の小さなグループから環境改善の運動をしていき、そこに賛同してくれる仲間が集まり、やがてその運動が大きくなっていく事を願っている」と語るその姿は、かつての【一番やりたくない仕事】に、今は喜びとやりがいを感じているように見えました。言葉はネガティブだけど、行動はポジティブ。このネガティブとポジティブが絶妙なバランスの徹さん。この先も「たまたま」と言いながらポジティブに行動し、様々な“縁”を手繰り寄せていくことでしょう。





私と女性部と共に

摂津地区漁協女性部連合会 会長 井上 二三枝

私は摂津地区漁協女性部連合会の会長として、平成十三年から前田様より大役を受け継ぎ昭和、平成、令和と元号も新しくなり、時代の流れと共に婦人部から女性部になりました。近年、漁家の経営は厳しいですが、現在に至っております。

親組合と連携を密に行い、高齢化が進んでおりますが、若い方に入部していただけるような魅力のある取組みをして部員一同頑張っております。

その一つが神戸地区生活研究グループ連絡協議会に加入し、神戸の農水産物の美味しさを伝えるために、月に二回、神戸市立水産会館の一階で直売市「漁業デー」を開催しています。生産者と消費者とのお顔の見える関係を築き、また漁業へ興味を持ってもらうようにし、神戸の旬の魚・旬の野菜を好きになっていただければと思います、販売させていただいております。今では近隣消費者の方々がたくさん買いにきていただいております。

また、魚食活動の一環としてイカナゴのくぎ煮の広報活動（くぎ煮の講習会等）を実施して参りましたが、近年イカナゴの水揚げが極端に減少した為、イカナゴのくぎ煮に変わりチリメン佃煮の普及活動に力を入れており、安価で提供し喜んでいただいております。

例年7月には、さかなたちと親子ふれあいデーを行い、一般財団法人神戸農政公社の協力のもとビデオ鑑賞・お魚の話・放流のためのヒラメ稚魚の提供をしております。その後、魚のつかみ取りでプールの中にサメ、ハマチ、ホーボー、タコ、アナゴなどを放して楽しんでいただき、おみやげに捕ったお魚を持って帰っていただいております。

会員は減少の一途をたどっていますが、継続的な消費者交流や食育活動に力を入れながらがんばりたいと思っています。



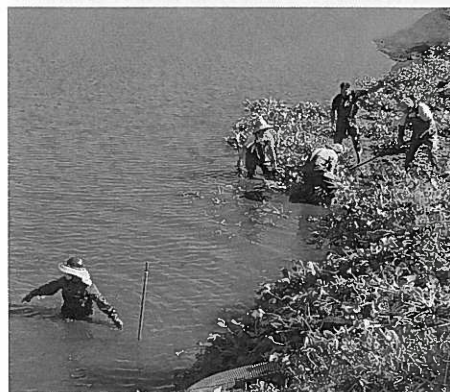
かいぼりを実施～豊かな海の再生へ～

JF森（森吉秀代表理事組合長）とJF仮屋（相田欽司代表理事組合長）は平成20年から近くのため池でかいぼり作業を継続して行っています。今年10月21日（月）、22日（火）の2日間で淡路市釜口「大田池」で行われ、JF森、JF仮屋の漁業者約40名が参加しました。2日目には津名東小学校の子どもたちも参加しました。

最初は水生植物がたくさん生えていたので、ため池の水を送り出す水門が詰まらないように刈り取り、それからため池の水を抜いていきました。水が少なくなりため池に生息し

ているコイやカニなどの生き物を網やタモで捕まえて水槽に移しました。水が無くなったところで、ホースで水を流しながらレーキやクワを用いて泥を掘り返し、窒素やリンを含む腐葉土を海へ放流しました。

このかいぼりは、JF森、JF仮屋が先駆けとなって行われ、淡路島内に留まらず、播磨地区にも広がりを見せており、豊かな海の再生に向けて取り組まれています。子どもたちにかいぼりを知ってもらい、豊かな海を取り戻す取組に少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。



水生植物を刈り取っている様子



泥を掘り返しているところ



子どもたちがため池で捕まえた魚を見ているところ

JAハリマ

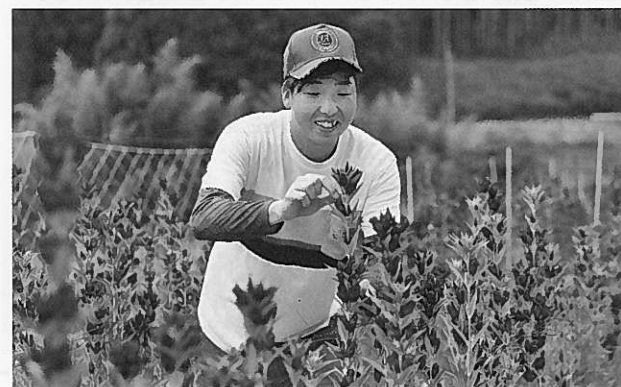
宍粟市の農業をりんどうで彩る

宍粟市の前田敬太さんは、幼少期から植物に興味があり、農業大学校に進学しました。卒業後はJAハリマに就職し、営農指導員として多品目を担当。自身のアドバイスが生産者の役に立つことにやりがいを感じる中で、次第に自分も農業に挑戦したいという思いが芽生え、2年前に就農しました。

就農にあたり、学生時代に専攻していた花きの中から、鮮やかな青色が魅力的で強く記憶に残っていたりんどうの栽培を始めました。前田さんはりんどうが特産品となるよう、収穫量の安定化を目指して、栽培管理に力を入れています。

りんどうは、他の切り花と比較して茎が細く、高さ1m以上に成長するため、倒れやすい傾向があります。そこで、茎を固定し、花の生育を助けるフラワーネットをりんどうの高さに合わせて3段重ねて設置し、倒伏を防いでいます。また、高温に弱いことから、全ての畝に白色のマルチを張り、地温が上がらないよう工夫を施しています。JAハリマ経済部営農購買課営農経済センター石原聖也さんは「前田さんは、りんどう栽培を将来的には宍粟市内の生産者に広めていきたいと考えており、栽培方法の確立を目指しています」と話します。

前田さんは、生け花から慶事弔事にも使えるりんどうが宍粟市の特産品として定着するよう、今後も収穫量の安定化を図るとともに、青色以外の栽培にも挑戦し、多様な消費者のニーズに応えたいと意気込みます。



<https://ja-grp-hyogo.or.jp/>

うみかぜ音楽祭

10月6日、舞子公園で「うみかぜ音楽祭」が開催されました。

兵庫県生協連では医療生協（神戸・尼崎・阪神）のみなさんやコープこうべ地域活動推進のみなさんと一緒にひょうごまるごと健康チャレンジの取り組みとして参加しました。

『健康チェックゾーン』では血圧・握力・体組成・ベジチェックを実施し、『運動ゾーン』ではスクエアステップ、『健チャレ宣言ゾーン』では健康チェックを受けて健康宣言をして、ボードに貼っていただきました。ご家族参加された方も多く、小さなお子様から、ご高齢の方まで212人の参加がありました。

参加された方からは「階段を使うようにします」「子どもが野菜を採れているのか気になってチェックしてみました。毎日野菜を採るように心がけます」「これからはいつもより10分多く歩いてみます」「ストレッチに取り組みます」「目標を決めて筋トレに励みます」などの声がありました。医療生協のみなさんと楽しく活動ができました。



スクエアステップ



皆さんの健チャレ宣言

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

協同組合人養成講座 11月講座 11月27日(水)のご案内

開催時間	講座名	講義団体の名称
13:00～14:30	EXCELの使い方 ・中級者求人編	JF兵庫漁連指導部 指導担当 田中 久善 YOUTUBEを活用して講義を実施致します
14:40～16:10	下水道の仕組み について	県下水道課計画指導班 主幹 森安 里夫

JF兵庫漁連

講座はWEB受講も可能ですので、多数の方々の参加をお待ちしております。また、会館での参加者による情報交換会では、簡単な食事と飲物を交えての職員間のコミュニケーションが図れますので、会館での受講にも参加下さい。

保存版

今が旬の魚介で作る!!

簡単!! 魚介レシピ

サバには脂肪酸が多く含まれており、日常的に摂取することで様々な健康効果が期待できます。

サバのオリーブオイル煮



材料

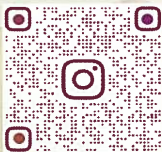
サバ	1 匹分	A) にんにく	1 片
塩	20 g	A) 唐辛子	1 片
オリーブオイル	300ml	A) 粒コショウ	10 粒
		A) ローリエ	1 枚
		A) ローズマリー	1 枝

作り方

- ①三枚おろしのサバの小骨を骨抜きで抜き取り、振り塩をしてしばらく置く。
- ②ニンニクは芯と芽を取り除き、薄切りにする。唐辛子は種を取り除き、輪切りにする。
- ③①のサバの浮いた水分は洗い流してしっかりと水気をふき取り、引き切りして1 cm幅に切る。
- ④フライパン一面にサバを並べ、Aを散らし、全体が浸かるまでオリーブオイルを注ぎ入れる。
- ⑤弱火にかけ、細かい泡が出る程度に保ちながら10分程煮る。*沸騰させないこと!
- ⑥火を止め、そのまま余熱で火を通しながら冷ます。皿に盛り付け出来上がり!



HP



Instagram

ひょうごのお魚ファンクラブ

SEAT CLUB

表紙の言葉



大輪田塾 19 期生の佐々木さんご一家

今回は、兵庫漁業協同組合の佐々木さんご一家にお話を伺いました。秋の長雨でお天気が心配でしたが、取材当日は見事な晴天! 兄弟の無邪気な姿に元気をもらいました。

“たまたま”とよく口にする佐々木さん。気になるその内容は、本誌 9ページをご覧ください。